希望新聞

東日本大震災希望新聞取材班
〒100−8051（住所不要）毎日新聞生活報道部
ファクス03・3212・5177
メールkibou@mainichi.co.jp

被災地に役立つ情報や「伝言板」への投稿をお待ちしています。被災者の今困っていることも募集します。投稿は、氏名、住所、年齢、職業、電話番号（あればメールアドレスも）を明記してください。

東日本大震災 サポート情報

18日現在

交通

■東北ローカル線パス発売

JR東日本は、東北6県（青森、秋田、岩手、宮城、山形、福島）のJR線と民鉄11社線の普通列車自由席が連続3日間乗り降り自由の「東北ローカル線パス」を27日から発売する。発売期間は7月29日まで。

利用期間は7月1日から31日までの金・土・日曜日または土・日・月曜日の連続する3日間。大人6000円、子ども3000円。JR東日本の「みどりの窓口」「びゅうプラザ」、指定席券売機と主な旅行会社で購入できる。

医療

19日の各地の休日当番医は次の通り。

〈岩手県〉

釜石地区＝釜石整形☎0193・31・1881▽気仙地区＝希望ケ丘病院☎0192・53・1019

〈宮城県〉

河北地区＝木村医院☎0225・62・3039▽矢本地区＝かしわや内科クリニック☎0225・83・2003▽気仙沼・唐桑地区＝佐々木小児科☎0226・22・6811、中原クリニック☎0226・23・1028▽石巻市＝斎藤病院☎0225・96・3251、石巻市立病院仮診療所☎0225・23・3200、川村産婦人科☎0225・93・7600

〈福島県〉

相馬市＝やまぐち小児科☎0244・37・8815、わたなべ歯科☎0244・36・2345▽南相馬市＝しいな脳神経外科☎0244・23・1744

労働・雇用

労働局などが中心となり、出張相談を開いている。ハローワーク職員らが「労働・雇用」「賃金未払い」「年金」などの相談に応じる。社会福祉協議会や自治体なども参加し、相談に応じる会場もある。

〈岩手県〉

大槌町中央公民館＝毎週火曜（11～15時）▽山田町商工会＝毎週水曜（11～15時）▽陸前高田商工会依事務所＝毎週木曜（11～15時）

岩手労働局の被災者サポートダイヤル☎0120・948・977と☎0120・980・783（ともに9～17時）

〈宮城県〉

20日＝女川総合体育館1階更衣室（11～15時）▽22日＝南三陸町・入谷公民館（11～15時）、角田・老人福祉センター（13時半～15時半）

宮城労働局企画室☎022・299・8834

〈福島県〉

20日＝白河国際カントリークラブ（10～12時）▽21日＝須賀川アリーナ（10時～11時半）▽22日＝ビッグパレットふくしま（9時半～11時半）、南相馬・原町第二中（13時半～15時半）、郡山市青少年会館（14時～15時半）▽23日＝県農業総合センター（10時～11時半）、県郡山自然の家（14時～15時半）▽28日＝石川町・八幡屋（10時～11時半）

福島労働局被災者ホットライン☎0120・536・088（9～16時）

その他

〈岩手県〉

■釜石市役所の証明書発行請求機運用再開　地震により稼働できない状態にあった盛岡地方法務局の釜石市役所内証明書発行請求機が20日から運用を再開する。取扱時間は平日9～12時、13時～16時半。同市役所第2庁舎3階に設置しており、不動産登記、商業・法人登記の登記事項証明書（閉鎖事項証明書を含む）、商業・法人登記の印鑑証明書の交付を受けられる。

携帯は受信可能設定に

被災者が求める物資や人的支援情報をお知らせします。必ず事前連絡をお願いします。

■共同支援ネットワーク
（仙台市）
kyoudounet@gmail.com
http://www.clc-japan.com/jishin_b.html

米がほしい　石巻市の仮設住宅や在宅で暮らす被災者が米を求めています。高齢者でなかなか買い物に行けない人や、震災で仕事をなくして収入がない人のためにご支援ください。共同支援ネットにメールで連絡を。

※共同支援ネットからお願い　携帯電話からメールをいただいて返信をしても、拒否設定になっていて送れない場合があります。何らかの設定をされている場合、受信できるよう確認ください。

■遠野まごころネット
（岩手県遠野市）☎0198・62・1001
tonomagokoro@gmail.com
http://tonomagokoro.net/

ハエよけグッズを　ハエの発生が続いている。岩手県大槌町の吉里吉里中学校の避難所では、75人が避難生活を送っている。心急処置のため、行政も網戸を設置するなど対応しているが、今後も被害が予想される。ハエ取りシート▽虫よけスプレー▽ハエよけの食卓カバー▽殺虫剤を。送付先は同ネット（〒028−0541　岩手県遠野市松崎町白岩薬研淵1の3）。

■ふくふくプロジェクト
（福島市）☎024・526・4533
project@fukushima.com
http://www.f-npo.jp/

ジャガイモと米を　NPO法人「まごころサービス福島センター」が、7月21日午前9時から、避難所になっている福島市のあづま総合体育館で、炊き出しをします。450人分のカレーライスを作る予定で、材料になる米とジャガイモを求めています。同センター（☎024・592・2270）の佐藤さん、河野さんに連絡してください。

ニーズ情報

備える伝える未来へ〈上〉

模型実演が効果

宮古の小学校 津波浸水 全員無事

海岸から約300㍍、海抜約20㍍に位置する岩手県宮古市立鵜磯（ういそ）小学校。河井彰校長(54)は、3月11日の東日本大震災での避難を振り返る。地震の揺れが収まると、14人の児童と教職員は校舎より高い位置にある講堂に避難した。津波が迫ってきた。「ここも危ない」。教師が先頭と最後尾につき、児童らは山道を上がった。

宮古市では400人以上が死亡し、行方不明者も多数出たが、鵜磯小では校舎は浸水したものの、児童は全員無事だった。

「避難場所にいたとしても、津波の際は、より高い所に逃げてください」。昨年12月、鵜磯小で行った出前授業で、岩手県立宮古工業高津波模型班のメンバー、畠山隼（しゅん）さん(18)らは訴えた。河井校長は「出前授業が意識の底で、児童や教職員に影響していたと思う。普段の積み重ねがあってこそ、パニックもなく無事避難できた」と語る。

宮古工高の生徒は、05年度から、宮古市と山田町の海岸沿いの小型模型を作り、水を流し、津波の浸水域を伝える活動を続けてきた。津波経験者が減る中で、地域で危機意識を高めてもらおうと始めた。これまで模型8個を作り、小学校や公民館などで計56回の実演を重ね、09年度の「ぼうさい甲子園」で防災大賞を受賞した。

◇

11年度のぼうさい甲子園の募集が始まった。防災教育の取り組みを通じて、「備える」「伝える」「つながる」現場を訪ねた。

昨年12月、岩手県宮古市立鵜磯小であった模型を使った出前授業＝堀江拓哉撮影

ぼうさい甲子園 募集します

毎日新聞社は、優れた防災教育の取り組みを顕彰する2011年度「ぼうさい甲子園」を、兵庫県などとの共催で実施します。東日本大震災にかかわる取り組みには特別賞を出すことも予定。締め切りは9月30日で応募・問い合わせは〒663−8201兵庫県西宮市田代町14の8の105、NPOさくらネット内　ぼうさい甲子園事務局＝電話0798・64・5829、ファクス0798・65・5254、メールbousai_koushien@yahoo.co.jp

伝言板

卒業生で花火を上げよう

▼川開き祭りで亡くなった同窓生を追悼　宮城県石巻市立湊中学校の卒業生で、東京都中央区の木村智恵美さん(26)らが、8月1日に開かれる石巻市最大のイベント、北上川の川開き祭りでの花火大会に、母校の卒業生からの協賛金を募っています。被災して協賛を取りやめた地元企業に代わり、例年の協賛金の50万円が目標です。震災で亡くなった同窓生を追悼し、地元出身者の望郷の念を受け止めよう――という、さまざまな思いを込めています。

1口1000円で何口でも結構です。50万円で数発分です。ウェブサイト（http://minachuhanabi.web.fc2.com）のメールフォームから申し込みを。締め切りは6月30日。集まった協賛金は川開き祭りの主催者の石巻商工会議所に送ります。目標額の超過分は石巻市への義援金とします。一般の方からも受け付けます。「玉の数は例年より減っても打ち上げたいです」

▼手押し車、ありがとうございました　5月18日掲載の「声　被災地から」で、「押し車があると助かります」と話していた岩手県大槌町の平野ハルさんの長女、川崎市の伊藤加代子さん(42)から、希望新聞にお礼のメールが届きました。掲載翌日、希望新聞の読者が直接、避難所に手押し車を届けてくれたそうです。平野さんは歩行が困難で、震災前はいつも、新調したての手押し車とともに外出していた。贈り主が誰か控えていなかったため、紙面を借りて感謝の気持ちを伝えたいとのことです。

「娘の私にも手押し車がほしいとは言わず、希望新聞を見て初めて母の気持ちがわかりました。地元の親族に聞くと、母は手押し車を実に楽しそうに押して歩き、歩ける喜びを実感しているそうです。タイガーマスクのような方、本当にありがとうございました」

被災地での診察　映画にも登場

強まった故郷への思い

気仙沼出身の医師 小野寺英孝さん

小野寺英孝さん

宮城県気仙沼市出身の医師、小野寺英孝さん(35)は震災後、勤務先の聖マリアンナ医科大学（川崎市）で災害医療救護班を結成し、約60日にわたって被災者を診察した。その姿は東日本大震災の被災地を撮影したドキュメンタリー映画「無常素描」（大宮浩一監督）に登場している。

小野寺さんは「達成感よりも無力感の方が大きい。被災地の内と外のギャップに今も戸惑う」と話すが、予期しなかったほど、故郷を慕う気持ちが強まったとも言う。

3月18日から5月末まで断続的に気仙沼市に入った。避難所や全壊を免れた住宅を回って、さまざまな病気やけがの被災者と向き合った。

「なじょしたべ？」（どうしました）。「いづがらっさ？」（いつからですか）――。気仙沼なまりで話しかけると、被災者の表情が和らいだ。配偶者を失った高齢者たちはせきを切ったように体験を語った。

「自分だけ生きでしまって」。力なくつぶやく姿に、「がんばっぺし。大丈夫だがら」と繰り返すしかなかった。診察を待つ列の中に、ぜんそくの子どもを連れた幼なじみの顔もあった。

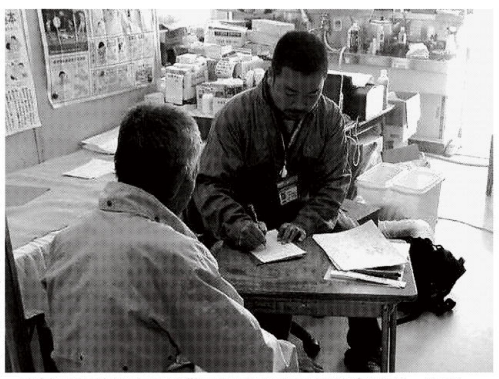
田舎がいやだった。都会にあこがれ、15歳で親元を離れて仙台市の高校に進学。医科大を卒業して脳神経外科医になった。妻子を連れて里帰りしたことはあるが、1週間を超える滞在は20年ぶりだ。母親(62)は「息子が帰って来てありがてえけど、このタイミングとは皮肉だな」と言った。

なつかしい景色は津波と火災で完全に消えた。築50年の自宅も枠組みが残るだけ。1階には他人の車と大量の冷凍魚が流れ着き、ヘドロと重油のにおいが鼻をついた。

小野寺さんの原風景は銀色に光る海と、カツオの競りで活気づく魚市場。「男も女も威勢がよくて、生気のない都会人とは全く違う。気仙沼の良さは人なんだって、大人になって気付いた」

小野寺さんは映画の中で「罪悪感」という言葉を口にしている。「その日、家族や友達と苦しみを共有できなかったから。それが活動の原動力だった」。震災が、小野寺さんの過去をも洗い流したような口調だった。

映画は18日、東京・オーディトリウム渋谷で公開。その後全国で公開される。【鈴木敦子】



宮城県気仙沼市の避難所にできた仮設診療スペースで、被災した人（左）を診察する小野寺英孝さん
＝小野寺さん提供

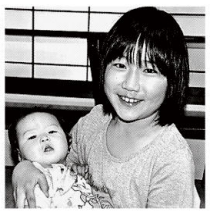
移動販売始めました

岩手

トラックで移動販売する中野貴徳さんと妻友枝さん

陸前高田市竹駒町の市立竹駒小学校の仮設住宅で移動販売を行う中野貴徳さん(42)「車が津波に流され買い物の足がなくて困っている人がたくさんいます。少しでも支援ができればと、地元スーパーの協力を得て移動販売を始めました。魚や肉などの生鮮食品も用意し、好評です。私もJR陸前高田駅前に開いた雑貨店が津波で流されました。個人商店は被災しても何の補償もありません。販路が確保できる保証がなければ、再建は難しいです。店ができなければ街の復興はあり得ません。個人商店を応援してほしいと思います」【中川聡子】

秋田



秋田市の避難先で5カ月の妹を抱く原田美咲ちゃん

東京電力福島第1原発から約25㌔離れた福島県南相馬市の自宅から秋田市の伊藤旅館に避難している小学3年、原田美咲ちゃん(8)「早く家に帰って学校のみんなと一緒に勉強したり、話したり、いろいろしたい。秋田の学校には慣れてきて、友達もできた。体育館で一輪車に乗って遊んだりしている。福島にはすぐ戻れると思っていた。福島で働いているお父さんが、時々秋田に来て家にあるものを持ってきてくれるけど、私の一輪車や机は持ってこられない。福島の友達はみんなどこにいるのか分からなくて話もできない。本当に早く帰りたい」【小林洋子】

声 被災者から

■被災地へボランティアに行くには■

各地の災害ボランティアセンター（VC）が被災地で活動するボランティアを募っている。電話で問い合わせる前に各サイトで情報の確認を。また、被災地に赴く前に居住地の社会福祉協議会でボランティア活動保険に加入することが望ましい。主なVC窓口は次の通り。

〈岩手県〉

県VCや各社協が内陸部に拠点を設け、沿岸部の被災地に送迎バスを出している。

◆県VC　☎019・637・7594　サイトでは個人参加できるボランティアバスの運行状況や各VCの募集情報を公開中

◆遠野市VC「遠野まごころネット」　☎0198・62・1001　遠野市総合福祉センター発着便で沿岸部の被災地に毎日ボランティアを派遣。登録も随時受け付け。要事前申し込み。寝袋持参で体育館宿泊可

◆宮古市VC　☎090・4478・3984　個人、団体とも1週間前までに電話連絡を

◆陸前高田市VC　☎090・2852・9736　できるだけ2人以上で参加し、3日前までに連絡

◆大槌町社協VC　☎080・3518・8490　5人以上の団体で要事前登録。個人参加は県VCの盛岡発ボランティアバスを利用する

〈宮城県〉

各VCが県外からの個人ボランティアも受け付けている。詳細は各VCのサイトで。

◆仙台市VC　☎022・231・1326　5人以上での参加は先着50人まで、要事前申し込み

◆石巻市VC　☎0225・23・6015　10人以上の団体は要事前連絡

◆気仙沼市VC　☎080・5949・7475　10人以上の団体は3日前までに事前連絡

◆名取市VC　☎022・784・3029　団体は要事前問い合わせ

◆多賀城市VC　☎080・5949・7501

◆岩沼市VC　☎080・5949・7541　8人以上の団体は要事前申し込み

◆東松島市VC　☎0225・82・9812　車中泊スペースあり。土のう袋をなるべく持参。5人以上のグループは早めに事前申し込みを

◆亘理町VC　☎080・5949・7719　団体は要事前申し込み

◆山元町VC　☎080・5949・7720　要事前申し込み

◆七ケ浜町VC　☎090・6853・4490　団体は要事前申し込み

◆南三陸町VC　☎080・2055・1066　県内外問わず団体も受け入れ中

〈福島県〉

◆県VC　☎024・522・6540

◆相馬市VC　☎0244・36・7827

◆南相馬市VC　☎0244・24・1877　公式ホームページで活動内容や注意事項の確認を

◆新地町VC　☎0244・62・5577　要電話確認。毎週木曜は活動休止日。テント泊、車中泊は禁止

◆いわき市VC　☎0246・22・5501　団体は要事前申し込み

◆電◆話◆帳◆

●行方不明者・震災関連相談ダイヤル
岩手県警　0120・801・471
宮城県警　022・221・2000
福島県警　024・522・2151（内線3024）

●医療
文部科学省健康相談ホットライン・放射線関連　0120・755・199（9～18時）
放射線医学総合研究所相談窓口　043・290・4003（9～17時）

●生活支援
日弁連電話相談0120・366・556（平日10～15時）
岩手弁護士会　0120・755・745（月～土曜13～16時）
仙台弁護士会0120・216・151（平日10～19時）
福島県弁護士会024・534・1211（平日14～16時）
あしなが育英会 被災者専用　0120・77・8565（遺児らに特別奨学一時金を支給）
チャイルドライン　0120・99・7777（月～土16～21時、18歳までの子ども向け）
震災関連の悪質商法110番　0120・214・888（10～16時）

●省庁　※平日のみ
公営住宅等情報センター　0120・297・722（9～18時。全国の公営住宅などを紹介）
住宅の補修・再建（国交省）　0120・330・712（月～土）
行政相談（東北管区行政評価局）　0120・511・556
金融相談（東北財務局）　022・721・7078
中小企業相談（経産省）　0570・064・350
農林水産業の被害相談（農水省）　0120・355・567
年金の相談（日本年金機構）0120・707・118※

●金融・保険　※平日のみ
預金口座照会センター（全国銀行協会）　0120・751・557※
災害地域生保契約照会センター（生保協会）　0120・001・731※
そんがいほけん相談室（日本損保協会）　0120・107・808※
携帯・PHSからは03・3255・1306※

●移転した役所
〈岩手県〉
陸前高田市　高田町鳴石　0192・54・2111
釜石市　シープラザ釜石　0193・22・8253
大槌町　大槌小学校　0193・42・2111
〈宮城県〉
女川町　女川第二小学校　0225・54・3131
南三陸町　町総合体育館ベイサイドアリーナ南側テニスコートの仮庁舎　0226・46・2600
〈福島県〉
広野町　FDKモジュールシステムテクノロジーいわき工場　0246・43・1331
楢葉町　会津美里町本郷庁舎0242・56・2155
富岡町　郡山・ビッグパレット　0120・336・466
川内村　郡山・ビッグパレット　0120・38・2119
大熊町　会津若松市追手町第2庁舎　0242・26・3844
双葉町　旧埼玉県立騎西高校0480・73・6880
浪江町　県男女共生センター（二本松市）コールセンター　03・5638・5055
葛尾村　旧法務局会津坂下出張所　0242・83・0271

★一時立ち入り受付センター0120・208・066　警戒区域9市町村への一時立ち入りを申し込める。8～20時